

U18 リーグ戦最終結果

8月から始まったU18 リーグ戦の全日程を終えました。

8月14日 高島 48 - 79 福生
8月25日 高島 77 - 58 杉並学院
9月 6日 高島 72 - 41 八王子実践
10月 4日 高島 52 - 85 光丘
10月11日 高島 80 - 68 足立

最終結果 3勝2敗 T3 (3部) Cグループ 6チーム中第3位

約3か月に渡る戦いは山あり谷ありでした。けがや体調不良で主力がそろわない試合もあった他、チームとしても戦い方が定まらず、5試合全てでスタートメンバーが入れ替わりました。

その中で、昨年から試合経験があるプレーヤーは少なく、下級生も数多く出場機会を得ている今のチームにおいてはとても貴重な経験となりました。課題は山積しているものの、チームとしてトライ&エラーを繰り返しながらも3勝をあげることができたことは一つの自信になりましたし、新チーム最初の高体連の公式戦である新人戦第4支部大会に向けてチームとしての強みや戦い方を確認することができたと感じています。

即効性のない努力を継続できるように

夏休みの終盤からDF フットワークに力を入れて取り組んでいます。今年度よりチームに加わったトレーナーからの指導により、DF 時の足さばきを丁寧に指導してもらい、日々の練習で時間をかけて取り組んでいます。その際、声を出すことを強く意識するようにアドバイスを受け、日々の練習の中で実践しています。スライドやクロスなどの決められたステップを5歩や3歩で切り返す中で、自分の歩数を大声で数えることで、取り組みのレベルが上がり、チームとしても活気ある練習になります。

また、週1回チームとしての方向性を確認するミーティングを実施して、毎週の目標を定めて活動しています。指導者がすべてを考えて選手に与え、選手は考えることなく言われたとおりに動くといった練習では彼らが充実感を持つことは難しく、主体性や考える力を育むこともできません。本気で取り組む活動だからこそ、自分たちで考え、自分たちで決めたことで、成功も失敗も数多く経験することに意味があると感じています。

DF フットワークにしても、毎週のミーティングにしてもすぐに目に見えた成果は表れません。ただ、そうした努力を高校生の年代で積んでいくことに大変価値があると考えています。「GRIT やり抜く力を手に入れる」という書籍の中で著者のキャロライン・アダム・ミラーは満足や解決策が即座に得られるのが当たり前の世の中になってしまったことで、成果のすぐに表れない努力を継続する忍耐力のある若者が極めて少なくなっていることを危惧しています。

世の中が便利になり手間をかけずにできることが増えていく一方、何かを成し遂げる上で長期的な努力が必要であるという真理は一切変わりません。長期的な努力に必要な忍耐力が日ごろの生活で身に付きにくい時代なのであれば、そうした力を養えるような活動を若い年代で経験することの価値は今までになく高まっているはずです。部員には高みを目指して、日々バスケットボールに真剣に取り組む中で、すぐには成果の出ない努力を続けられる粘り強さを持った人に育ってほしいと切に願っています。日々の小さな積み重ねの価値を部員一人ひとりが信じられるような活動となるよう、DF フットワークやミーティングを日々改良しながらも継続していきます。